

平成19年 11月 29日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association



『新たな挑戦』

英語学科 小川 公代

上智大学の嘱託講師として3年間英語を教えて参りましたが、この春から専任として英語学科講師に着任いたしました。最初の2年間は一般外国語教育センターに配属されたので、理系、文系を問わず幅広い学問に従事する学生と交流をもつことができました。学生に何かを「教える」というより、自分が教えられることのほうが多かったように思います。英語学科以外の学生にとって、「英語」とは「プラクティカル」、「知的な面白さがある」などの付加価値がなければ、苦痛なものとなりうる科目であるので、授業の運営や教材作成にかなりの工夫をこらさなければなりません。英語学科ではまた新たな挑戦があります。英語学科の学生が何を求めているのかは他学科の学生より広範囲であることも事実で、その「何か」を私自身の英語習得の軌跡をたどりながら模索しています。

私は小さいころアメリカに1年半住んでいたという以外は、高校2年生の夏まで留学経験はありませんでした。ですから、英語は日本人向けの英文法というフィルターを通して吸収されました。イギリスに留学してからは、その骨組みが文化、生活、学問に密着した英語によって肉付けされてゆきました。なかでもよく覚えているのは経済学と音楽史です。ミクロ経済学の理論やらバロック音楽の特徴やら高校2年生の英語力では理解できないことばかりだ・・・と匙を投げかけたのですが、知性の魂を吹き込まれてすべてがキラキラと輝きはじめました。ラム(羊)肉の価格が市場でどう動くかという話が面白かったのか、音楽の先生がHenry Purcellはイギリスを代表する作曲家であると言って崇拜していたのが印象的だったのか、とにかく好奇心が刺激され、もっと知りたい、もっと自分の意見を伝えたいという気持ちが芽生えてきたのです。それぞれの分野に必要な英語、議論するのに必要な表現などは後からついてきました。イギリスの文化的背景として、「答え」ではなく、「プロセス」または一人一人の「Whyの説明」(論文を書く過程)がより重要であるという考え方があります。試験の大半が多項選択式ではなく論文形式であることや、解答を導くまでの議論を重視することなどは、まさに個人主義思想を重んじるイギリスならではののかもしれません。私はその後、イギリスの大学で政治・社会学を学び、博士課程においては英文学の研究に従事しました。かなりのイギリスびいきであるのは、このようなイギリス教育制度が奨励する個性尊重型に共感したからです。

英語の教員として私にできることがあるとするなら、学生の英語能力を向上させることと、彼らが「人に伝えたい」と思うに値するテーマ(環境、経済、社会、政治、文学)を選び、inspireし、勇気づけることだと考えています。英語学科の学生がそれぞれの「何か」を見つけてくれるよう教育活動に邁進したいと思っています。

『千の風になって』

奥野 瑞枝 (昭和51年卒)



「親父の後を継ぐぞ」の一言で夫の故郷へUターンしてはや16年。三人の娘達も次々巣立ちやっと身軽に。しかし住居併設の医院を継いだ夫は三食昼寝付きで家から離れず、その上そろそろセミリタイアしようかななど言い出すしまつ。第二の青春だーとうそぶいていた私の人生設計も暗礁に。こんな私の楽しみはエアロビとテニス。どちらも車ですぐの所で出来るので暇を見つけては通っています。エアロの方は全米ヒットチャートに合わせて踊るのでポップス好きの私にはピッタリ。でも歌詞が早すぎて何を歌っているのかわかりません。70年代に流行っていた歌はスローで聞き取り易かったと思いませんか？後一つの楽しみは旅行。家から離れられないストレスを旅行で発散する夫に付き合う家族旅行、夫から離れられない私のストレスを発散させる友人との旅行。どちらも大切な時間だったのですが私の大親友であり常に旅行のパートナーだった 子さんが今春病気で亡くなってしまいました。いつも元気で健康に自信を持っていたゆえに発見が遅れてついに帰らぬ人になりました。未だに彼女の死が受け入れられないのですが、それは同時に私の中ではまだ彼女は生きているということで「人は思い出のなかに生き続ける」を実感する毎日です。阪神大震災で九死に一生を得た彼女の口癖は「元気なうちに楽しまなきゃ損よ。」そして、思い通りに生きたから人生に悔いは無いと言いながら旅立って行きました。短いけれどもやましい人生でした。私も負けないで人生をエンジョイしなくっちゃ、皆さんもね。でもくれぐれも健康診断はお忘れなく。

『テロ特措法に思う』

塩野 諭(昭和63年卒)



その延長の是非をめぐり11月で失効するテロ特措法にかかわる自民・民主の鞘当てが連日紙面を賑わしている。同法は言うまでもなく2001年9月11日の米国同時多発テロをきっかけとした米国の対テロ戦争を支持する小泉内閣が成立させたものであり、同法延長議論は戦争放棄を誓った日本の行く末に大きく影響を与えるものであろう。ところで日本人にとってのテロはNYワールドトレードセンター崩壊シーンを象徴として、計り知れないしかも縁遠いものとして捉えられているように思われるが、私にとってのテロとは少し違ったものだ。

1996年2月～1999年3月までの約3年間、私は損害保険会社の駐在員として南米コロンビアで家族とともに駐在生活を送った。コロンビアと言えば麻薬、ゲリラと暴力的なイメージが国際的に定着しているが、映画でも有名なメデジンカルテルなどの麻薬組織と農村部の貧困層を組織した左翼ゲリラが融合したFARC等のナルコゲリラ(麻薬ゲリラ)が私の駐在時期も猛威を振るっていた。石油パイプラインや電力・通信施設等の国家インフラ破壊、街中での車爆弾や企業を標的にしたテロ行為、資産家・外国人誘拐などが毎日のように起こり、もちろん損害保険業界も大きなダメージを被っていたが、一方で我々駐在員にとっては理由なく身に迫る危険を前に日々の生活は著しく制約を受けた。9・11前の損害保険業界におけるテロの定義は「政府転覆を目的とした組織的破壊行為」とされていたが、次第にイデオロギーすら失い、組織巨大化のための金銭獲得とその存在の誇示のみを行動目的としているように我々外国人の目には写っていたコロンビアのゲリラ組織は果たしてテロ組織と言えるのだろうかかと外国保険会社として現地系保険会社の幹部たちと大いに議論したものである。一方、ペルー日本大使公邸占拠事件(1996年12月)対応で現地入りしたリマ市街では、大使公邸を占拠するペルーの左翼武力組織MRTAとそれを囲んでいる軍を横目に市民はいたって平常どおりの生活を送っていたことに一種の異様さすら感じた。(公邸の傍らではアイスクリーム屋、Tシャツ屋(“MRTA万歳”と背中に書いたTシャツを売っている!)が日本のTV局取材陣や見物客相手に露店を開いている始末。私にとってテロは身近でありながら得体の知れないものであったが、一つだけ確信をもって言えることはテロとはそんな我々の「無理解への報復行為」であるということである。帰国して8年が過ぎ、つくづく思うのはその平和の有難さとともに日本人が他国へ向ける感性の乏しさである。今後日本国民がテロの根源にあるものを理解しようとする努力を怠るならば、後方支援であれなんであれ、無理解への報復の連鎖に文字どおり油を注いでいるに過ぎない。「テロとはなにか?」そこから議論を始める必要があるかもしれない。

卒業生短信

9月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)
皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

SELDAA会員の皆様へ
私は昭和35年入学、40年卒業の奥山光三と申します。卒業が1年遅れたのは若気の至りで無茶をして2年の始めに肺結核(浸潤の段階でしたが)を患って8ヶ月間の入院を余儀なくされたためです。おかげで2つの同窓会に出られる「特典」が得られました。その後は至って健康で、パイオニア、ケンウッドと並んで音響御三家ともてはやされた山水電気に入社して海外とのビジネス一筋にやって来ました。ところが一部上場の山水電気が倒産状態に陥り退職、3回の転職を経て現在の娯楽機器メーカーに入って13年になります。24年間勤めた山水電気では音響機器を世界中に売って歩いた私が、この会社では海外のカジノ相手にスロットマシンを販売して来ました。人生何があるか分かりません。今は現役を退いて相談役的な立場で楽に勤めさせて貰っています。66歳の今日では3人の子供も夫々独立して内・外合わせて孫も4人になりました。子供といえば私の自慢の一つはベルギーで生まれた1人息子が1996年度の十種競技日本チャンピオンになったこと。私は小柄ですが子供達は良く育ててくれて息子は身長181センチの陸上選手でした。今はその息子が買ってくれた2世帯住宅で2人の孫に囲まれて妻と気楽な生活をエンジョイしています。体の方はまだまだ若いのですが後進に道を譲る意味でそろそろ引退の潮時かと考えています。皆様には今後ますますのご活躍をお祈りしております。このたび下記に転居しましたので、この場をお借りしてご案内させていただきます。

〒215-0024 神奈川県川崎市麻生区白鳥4-15-1
TEL: 044-701-2788

奥山 光三(昭和40年卒)

去年に引き続き、今年もニューヨークで行われた「永遠の平和デー」(現地8月5日 Universal peace day)に参加した日米の歌手たちの熱演の前に被爆者として広島の実存体験と現地に至る数々の癌闘病のSpeechをした場所が平和を求める歌「イマジン」の作者、ジョン・レノンのダコタ・ハウスに近いセントラルパークのステージだったせいか、講演後、

数多くの方が列をつくり、声をかけてこられた。中に二人のVeterans(現役軍人)が元NavyとArmyを代表して現れていきなり“Apology・・・”された。これまで、退役軍人の組織は“原爆のお陰でその後の日本人100万人が生命を救われた!”という認識だったので大変驚かされた。去年の10月以来、6度の入退院だったが、核兵器廃絶論のジミー・カーター元大統領からロザリン夫人との共同私信で、共立私信で、強烈な激励もされているので、今後も平和貢献に役立ちたい!

小林 康司(昭和34年卒)

浦河STP同窓会報告

1976年の浦河STP(サマー・ティーチング・プログラム)参加者12名が約30年の時を経て集まってきた。きっかけはSTPメンバーの小木曾、小池さん(79年)の二人がこの5月に浦河を訪問したこと。そのとき撮ったビデオや写真を当時の仲間と分かち合いたいと声をかけた。サマースクールの生徒だった東京在中の2名も参加してくれた。元中学生も今47歳だ。懐かしい仲間と一緒に、思い出の写真やすっかり新しくなった町の様子をビデオで身ながら気分はすっかり大学生の頃に戻ったよう。今回のメンバーは幹事が個人的に連絡をとる方々に限られたが、今回はさらに多くの人に参加してもらえればと願っている。実は、今回浦河を訪れた際、かつての宿泊先である体育館施設付近で偶然、地元名士の方に会い、STPの事をお話したことから、二人のことが北海道新聞に紹介された。その記事を見た道内の元中学生達から新聞社に連絡があったという。さらに、7月下旬、栗原さん(79年卒)が浦河町を再訪。教育委員会や浦河町にいる元STP参加者と話し合いを持ち、浦河で当時の教え子たちと一緒にSTP同窓会を開催したいという夢が現実味を帯びてきた。また、この同窓会の事が8月1日の北海道新聞日高版に掲載された。現在、浦河STPメーリングリストも作成中。詳しいことはインターネットで「浦河STP同窓会」と検索するか、次のURLまで。

<http://blue.ap.teacup.com/urakawastp/>

元木(旧姓平田)恵子(昭和55年卒)

私は以前オックスフォード大学の博士論文を基に“Grassroots Pacifism in Post-War Japan: The rebirth of a nation”という本をイギリス学術出版社RoutledgeCurzonで出版いたしました。この度その日本語版『戦後労働組合と女性の平和運動——「平和国家」創生を目指して』を青木書店より出版いたしました。

英語版は出版社によると、このての本にしては売れたほうで、特に欧米のハーバードなど主要大学の図書館やその他世界各国で、めずらしいところではイスラエル、アラブ首長国、中国の南京大学で購入されました。ペーパーバック版も出され、ハードカバー版よりももっと廉価に入手可能です。

日本語版紹介：

<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/html/4250206343.html>

英語版紹介：

http://www.routledge.com/shopping_cart/search.asp?search=grassroots+pacifism

英語版の方は海外で日本の平和運動を知ってもらうために書きましたが、日本語版の上梓で私が読者の方々に望むことは、もう一度日本人の平和観の長所だけでなく弱点もありのままに見つめ戦後以来の日本人の来し方、そして足元を再考するということです。なかでも戦争直後の若者や女性達がどのような心意気で社会貢献をしたかをもう一度特に私の世代やもっと若い読者の方々に知ってもらえたらとも思っています。

日本の戦争・平和観について御興味のおありの外国人の方、敗戦直後の日本人の肉声から平和問題を再考されたいと思う方、そしてまた平和問題を学ぼうとする若い方々の入門書としてお役に立てればと心より祈っております。

山本真理（1981年卒業）

ソフィア会・会員No.(0336240/56外英)

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町10-35-E1908

1986年より2度の短期の帰国を含めて20年間の海外出向生活をやっとの思いで終了し、5月24日より汐留のオフィスにて勤務しております。久しぶりの日本の生活は、とまどうことばかりで不安もつ

りますが、前向きに粛々と活動していこうと思っています。サラリーマン人生も終盤に入り、疲れることも多いですが、有意義にと努めております。今後とも宜しく願いいたします。

敬具

廣瀬 一郎 (昭和53年卒)

元気でやっております。満74才になりましたが、今だに現役です。上智の発展を心からお祈り致します。上智は創立100年を超えましたか。

教えて下さい。

大野 貢平 (昭和34年卒)

二度目の人生の岐路

最初の人生の岐路は、2000年、ヘッドハントされてカナダ政府直属の機関に入った時でした。当時26才、30才まではリセットと思い、現職を拝命しました。以来7年が経ち、外交の裏側、国益に対する認識が深まり、国内外の多くの方々と知り合う機会等、貴重な経験をさせて頂きました。与えられていた責任の重さについては、詳細な機密につき申し上げられませんが、私の小さなノートPCのデータの価値が約USD3,000万という数字からお察し頂けると思います。ほとんど休みを取っていなかったため、政府の内規により長期休暇を取得し、現在、自分探しの日々を送っています。この期間中、大学在学中から興味があった「言語と通信」というテーマで研究活動をしておりました。これが日本のある携帯電話事業社の目に留まり、現在共同研究を行っております。工業所有権も取得する方向で現在文献の山と闘っております。

来年5月の休暇終了と共に現職に戻るか、研究を続けるか、2回目の人生の岐路を迎えようとしております。人生の大きな選択としては、これが最後の岐路になると考えております。5/26に33才となり、どうにも今後が気になる今日このごろです。

以上

柏尾 南壮 (平成7年卒)

卒業生短信

「教え子達の英語コミュニケーション力の向上を願って」

在学中は、英語はあまり真面目に勉強しなかった私ですが、夫の転勤でロサンジェルスに行ったことが転機となり、UCLAの応用言語学部でTESLの修士号を取り、1996年に帰国後は、東京外国語大学や慶応大学などで非常勤講師として英語を教えています。

UCLAで指導していただいた先生方には、とても影響を受け、労力を惜しまず創意工夫のある授業を作り出し、learner-oriented(学習者の立場に立った)な授業をめざす、その熱意とエネルギーにはいつも感心させられたものです。自分もそういう指導をめざしながらも、実際に教えていると、目的の種類も動機のレベルも学生によってさまざま、常に試行錯誤です。よく学生に「英会話が上手になるにはどうしたらいいでしょうか」などと聞かれます。そういう学生に限って、授業では、自分から英語で発言はしないし、夏休みに何をしたか、などの簡単な質問を英語でしても、「えー」とか「あー」とかうなっているばかりで、先生や他の学生をじーっと待たせて、一生懸命頭の中で英作文をしていたり、中には「ちょっと待ってください」と電子辞書で何やら言葉を探していたりしています。

そんなわけで、学生達には「英語を正しく、カッコヨク話そうと思わずに、とにかく相手のボールを受け取って、すぐに返球するというキャッチボールを実践しなさい」と言っています。もちろん、正しく話せるにこしたことはないのですが、どういうふうに話すかよりも、何を話すかのほうが大事で、さらに、黙っているのは一番悪いということ自分のアメリカ生活でも実感したからです。

そんな学生達も含めて、日本の方々が英語でのコミュニケーションを少しでも円滑にすすめられるようにという思いで、最近、本を2冊出版いたしました。

「英会話ヂカラをアップ：魔法のフレーズ100」(ドメス出版)は、簡単ながら、言うと言わないとでは、その人の印象に大きく差がつくフレーズを集めたものです。英語での人間関係をスムーズに運ぶのに役立つフレーズを100個選び、謝罪や依頼などの場面別に紹介し、英語コミュニケーションの心構えにもふれました。これから海外に行く方や留学生の方などが、上手なコミュニケーションをとって、英語環境での輪を広げていくのに役立つようにという思い

でまとめました。

9月半ばに出版された「ポジティブ・イングリッシュのすすめ：[ほめる][はげます]英語のパワー」(朝日新書)は、私が7年間のロサンジェルス滞在で実感した、compliment(ほめ言葉)の効用がテーマです。むこうに住み始めたとき、アメリカ人のほめ上手なことが、新鮮な驚きでした。また、日本人の好きな「頑張っ！」以外に、いろいろな言い方ではげまされたことで、自分もパワーや勇気ももらってきました。長い間のブランク後にUCLAの大学院に入って苦勞していたときに、私を救ってくれたのが、先生方からのさまざまなcomplimentやはげましの言葉です。それがなかったら今の私はなかったと言ってもいいくらいで、いつかこのことをテーマに書いてみたいと思っていました。この本では、さまざまなほめ言葉やはげましの表現を紹介しながら、英語文化の背景にあるポジティブな発想を理解することで、英語でのコミュニケーションがより豊かになるというメッセージをこめました。また、ほめるときの5つの基本パターンも紹介しているので、英語でほめるのは難しいと思っている日本人の方も「気軽にほめてみようかな」という気になってもらえるのではないかと期待しております。本屋で見かけた折には、目を通していただいて、感想などいただければ幸いです。英語でのコミュニケーション力向上といっても、最近の学生の中には、日本語での面とむかっのコミュニケーションも苦手のように見受けられる人もいますが、最初は原稿を棒読みするだけだった学生が、学期末には、アイコンタクトもしっかりとった、思いがけないほどすばらしいスピーチをしたりと、学生からは喜びや刺激をもらえることが多く、教えることは楽しいと思える毎日です。

木村(本山)和美 (昭和49年卒)

S,34年(外英)卒の同期生のみなさん元気で活躍でしょうか。47年前、ソフィアを巣立って小生もまもなく金婚式を迎える年令に達しました。今、過去を振り返ってみればよくがんばったなあという思いで感慨無量です。——という訳で、現在の小生は膀胱手術に加えてパーキンソン病にとりつかれて、毎日が院宅での蟄居生活を余儀なくされています。その他は、能の方はボケずにしっかりしていますのでTV観戦(主に野球。MLBのヤンキースファン)や読書などで気合一新、“一日、生涯なり”を生活信条として日々を過しております。ここまで、とりあえずこれたのは、医師、家族や多くの人々の支えがあったればこそと感謝しております。今後も人生の生き甲斐、目標を目指して、“to hope against hope”でありたいと思う。ちょっと手前勝手の近況報告まで。

嵯山我山 雄也(昭和34年卒)

昨年4月からイスタンブールに長期出張しており、今年4月からは引き続き、アンカラ駐在になりました。
今泉 徹(昭和60年卒)

52/外英の丸山徹です。卒業後はジャーナリズムの世界に身を投じ、中東、北米特派員も経験し、英語学科で学んだことを生かせる仕事ができることを喜んでいます。このほど本を書きました。ニューヨーク時代の経験に触発され、十数年におよぶ調査、執筆の試行錯誤の結果、ようやく出版にこぎつけました。『入門・アメリカの司法制度——陪審裁判の理解のために』(現代人文社)がその本です。極力、専門用語を使わないで分かりやすくアメリカの司法システムの全体像を描いたものです。自分としては時流受けを狙わないスタンダード版を目指しましたが、日本が裁判員制度を導入することで、時事的な価値も出てきました。私のジャーナリスト人生のひとつの到達点として書いたという思いもあります。

丸山 徹(昭和52年卒)

ソフィア会SNS始めました

ソフィア会では卒業のネットワークづくりを支援するために「ソフィア会SNS」を用意しました。新しいコミュニケーションツールとして注目のソーシャルネットワークサービスSNSは会員限定のコミュニティとして期待されています。たくさんの卒業生に入会いただいてネットワークの輪を広げましょう。

ソフィア会SNSは

上智大学卒業生、教職員限定の会員制コミュニティです

本名でお入りいただきます。

入会ご希望の方はソフィア会HP(<http://www.sophiakai.gr.jp/>)からアクセスしてください。招待状はソフィア会から差し上げます。(友人同士では招待できません)

ソフィア会SNSに入会すると、ソフィア会事務局からのニュースや事務局日誌をご覧いただけます。(ソフィア会SNSの魅力は「本名」で登録することで、類似SNSよりもリアルな繋がりが持てることだと思います。この機会にぜひSELDAА会員の皆様も御参加ください。

——SELDAАシステム担当：根本)

会長退任のご挨拶

石川 雅弥 (昭和40年卒)

去る5月27日に開催されたSELDAAの総会で、私の会長退任と次期会長として池沢なるみ氏(昭和48年卒)の就任が承認されました。二期6年にわたり歴代の会長諸氏により築き上げられた同窓会を運営することができたのも会員の皆様のご理解とご協力の賜物です。本当にありがとうございました。

来年度、SELDAAは設立25周年を迎えます。同時に、英語学科は創立50周年を迎えることとなります。その大きな節目を迎えるにあって、会員の皆様にタイムリーに情報を発信するために不可欠な会員情報のデータベース化、ホームページの開設、そして、ソフィア会との協力体制ができたことを大変誇りに思います。ソフィア会とは、会員情報を共有しており、そのための仕組みを構築しました。大使講演会は、ソフィア会と大学による主催、SELDAAの協力で開催されており2年目に入りました。これからも母校の名物講演会のひとつとして定着することを願っております。

昨年までのSELDAAの会員は、7,505名です(今年の卒業生は198名)。そのうちの5,760名の会員の住所が判明しており、年2回会報誌を発送しています。残念ながら、1,745名の会員の方々の住所が不明です。現在、会員の約25%(住所判明者の31.7%)の方々から会費をいただいております。そして、今年度への繰越金は約1,520万円(名簿積立金を含めて)となっています。ピーク時には650万円を超えていた会費収入ですが、ここ数年は200万円を下回っています。昨年度はちょっとアップしましたが、その前の年度は150万円を切っていました。それに対して、支出は400万円前後あります。その7割ぐらいが会報の発行と発送に要する費用です。このまま手をこまねいていたら財政が破綻してしまいます。

このような状況から、今後の同窓会の運営に求められているのは、収支のバランスをとりながら会員へのサービスを向上するという一見矛盾する要求です。幸い、会員のデータベースが完備したことから、特定の地域やグループの会員へ必要な情報を発信することができるようになりました。ソフィア会との連携も可能となりました。ホームページも利用できます。是非、池沢新会長と会員の皆様で知恵を出し合って同窓会を活性化し、記念すべき25周年を迎えたいと思います。もちろん、私も応援します。

会長就任の挨拶

池沢 なるみ (昭和48年卒)

去る5月27日に開催されたSELDAAの総会で、新年度の会長に選任されました。同窓会の常任委員として、今までの会長さんや仲間の常任委員の方たちと歩んで参りましたが、この度は会長職と言う重責を担うことになりました。

「役員個々にかかる負担を軽くし、役員との交代がしやすい組織と業務」を目指し、懸案であった会員情報のデータベース化、ホームページの開設を石川前会長が進めてくださいました。つい最近まで、預かっている帳簿の遺失・破損を恐れながら、会計の係の方が分厚い帳簿をひとつひとつめくり、会費の納入状況を書き込み、会報の封筒に「未」などの判を押す、という、「手作り」どころか収入のない内職をしている様な状態だったのが夢のようです。

このような作業はなくなりましたが、現在の常任委員の方々もお仕事や家事、諸活動の合間に、分業形式で同窓会の事務作業を行っています。この方達のもとめ役、舵取り役というのはあまりにも身に重い職ですが、これまで通り、皆様と相談しつつ、同窓生のコミュニケーションの場を提供できるよう努力したいと存じます。

会報に載せられた記事がきっかけで久しぶりの同窓会が開かれた、大使講演会のお知らせを見て久しぶりに母校を訪れ力が湧いた、同窓会行事で会ったことで異業種の方との交流が出来た、など嬉しい話が聞こえてきます。皆様のご活躍と、上智大学と英語科の発展のために、裏方として少しでもお役に立てれば嬉しいと思います。

いつの間にか12年の歳月が経ってしまった常任委員ですが、お陰で色々な世代や分野の方々とのふれあいがあり、学び楽しんで参りました。他の方にも是非こういった機会を生かして頂きたいと、常任委員への参加にお誘いしながらの挨拶とさせていただきます。主婦業の合間に駆けつけて作業をしてくださった方。仕事の為に運営委員会はなかなか出席できないが、自宅で出来る仕事を引き受けてくれる方。いろいろな形でいろいろな方がお力を貸してくださって来ました。あなたも仲間に入って頂けませんか？

大使講演会

第六回

2007年5月30日

アイルランド大使 ブレダン・スカネル大使による講演会
『アイルランドの今』

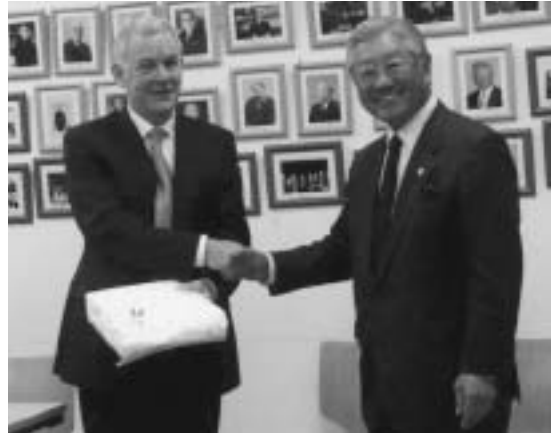
「世界の最新の息吹を母校で」

アイルランドと言えば皆様何を思いますか。ギネスビール、St.Patrick's Day、それとも敬虔なるカトリック教国？

恒例の大使講演会シリーズ6回目講演は去る5月30日駐日アイルランド大使 Brendan Scannell氏より“アイルランドの今”と題して行われました。大使はアイルランドと日本並びに上智大学との関係(近年アイルランドへは上智大生が毎年20数名訪問しているとの由)に言及した後、videoでアイルランド国の一般概況を紹介。その後、演題の本論、即ちアイルランドの現在を語るには同国の過去に遡る必要性を説いて、アイルランドの過去より現在までの歴史を短観しました。

講演会からの主要メッセージは大略下記4点。：

1. 我国国歌君が代の初代作曲者は、19世紀中葉に日本に来航したイギリス軍の軍楽隊士長(アイルランド系)であった事。本事実を知る一般日本人は皆無でしょう。
2. 日本とアイルランド両国は、古くて新しい国という意味で可成り類似点を有している事。両国共、略単一民族で数千年の誇るべき歴史があり、特に近代にその存在感を発揮した。即ち世界史的観点から、日本は19世紀中葉から近代国家への道を歩み始め、第二次大戦後は世界の中で大国となった。アイルランドは日本と違って、6世紀のケルト民族定着後、バイキングから始まる外敵の侵入、英国の植民支配を被ったが、第二次世界大戦後のEU加盟後、国力の飛躍的發展を遂げて新しい国となっている。
3. アイルランドはEUの優等生
アイルランドは1973年に現在のEUの前身たるECに加盟。現在EU27加盟国の中で優等生的存在である。例えば、国民1人当りのGDPはルクセンブルグに次ぎ、EU第二位。大使はアイルランドのEU加盟こそが、アイルランドの現在の高度経済成長、社会変革並びに政治的安定となって、国を根底から活性化、変貌させた点をしきりに力説された。具体的に、当該加盟に依り、アイルランドはビジ



ネス販路の拡大や、外国資本の流入促進といった具体的経済果実を享受出来るようになったことのみならず、民間部門経営者のより一層の市場経済に基く経営理念の覚醒に大きな影響をもたらした。この経済的發展が現状の政治的安定にも多大な貢献をしている。

4. アイルランドは清潔で美しい自然環境に恵まれた国で、毎年約700万人強の観光客が訪れる豊かな観光資源国でもある。

今宵の御話はアイルランド国に関してでしたが、Globalismと言われる現代では、政治・経済が世界のどの国とも密接に結びついている時代です。今回はアイルランドという切り口を通し現代世界の事象に一時思いをはせる機会を得ました。

一国の大使といえども、経験豊かな大使であれば、世界各国に勤務された経歴をも有し、且つ豊かな知見と洞察力を持たれる方が多いわけですから、英語科の皆様も意識的に時間をお作りになって、大使講演会に足を運ばれては如何でしょうか。世界の最新の息吹を母校で旧友と共に、時には胸一杯吸われては如何でしょう。そのような貴方の一人一人の存在が世界の平和に、いずれは資することでしょう。

原 健之 (1965年卒)

第七回

2007年7月3日

ドイツ大使(ハンス＝ヨアヒム・デア大使)による講演会



母校で大使の講演があることを、ソフィア会HPで知り、参加したい気持ちに駆られ主人と楽しみにして伺いました。2年前に夫婦でドイツ旅行をしていたため、まだ新鮮なドイツへの印象が生き生きしたのです。

デア大使のお話は、まず流暢な日本語による挨拶から始まりました。本題は英語で行われましたが、終始ドイツ人らしい真摯な態度をくずさず品格ある素晴らしいお話でした。参加者は学生から社会人、主婦まで幅広い層の方々が一杯でした。

最近のドイツと日本の関係にスポットを当てられ、世界の平和共存のために、グローバルな協力が必要とされていることや先進的な取組例などを、色々な点から説明され興味を引くものでした。旧東西ドイツの統合をはじめEUによるヨーロッパ全体の統合のプロセスなど、近年のヨーロッパの発展は理想的に映ります。このことは30年前に数年

バりに住んでいた経験のある私にとって、大きな驚きです。そしてドイツと日本の関係は国際的な枠組みの中で常に自然な協力をし合ってきていることも嬉しいことです。去年1年は日本のドイツ年でもありましたが、この講演を終えて、ドイツへの親近感が更に高まりました。

主人は沢山の講演会に参加し、また自らも講師として講演会を実施していますが、その主人がこんなに司会進行が手際よいのはじめてと感心していました。質問とその回答はとてもの確で、さらに司会者が関連質問をすることによって問題点の解説が深められたことは見事でしたと感想をもらっていました。企画して下さい上智大学・ソフィア会・SELDAAの皆様、本当に有難うございました。今後ともこのような有益な講演会などに是非参加させていただきたいと思っています。

神田 葉子 (昭和51年卒)

2007年度定例総会報告

*日時：2007年5月27日(日) 12:00 ~ 15:00

*場所：上智大学4号館183号室

* 司会挨拶および議長の選任

司会：佐藤 誠一郎(昭和53年卒)

司会一任で議長：根本 竜太郎(平成15年卒)

書記：成瀬 洋子(昭和48年卒)

* 会長挨拶

会長：石川 雅弥(昭和40年卒)

会長職を2期、6年務めて今総会を最後に退任を決めている。

昨年までの英語学科の卒業生は7505名。SELDA Aはまもなく設立25周年を迎えようとしている。

様々な活動を支える会費の繰越金は目減りし続けている厳しい現状。

今日は皆さんから活発なご意見、ご質問を期待している。

* 総会議事

1. 2006年度活動報告

会報発行

例年同様、春、秋2回発行。(43号、44号)

SELDA A協力による「大使講演会」の開催。

5回実施(リアア、モコル、アル・ソツ、イリス、フィンランド)

過去に3回SELDA A主催で行った企画がセキュリティ等の面で困難となったところ、上智大学にふさわしい企画であることから大学、ソフィア会主催、SELDA A協力の形で引き継がれているもの。

SELDA A主催のセミナー

長谷川真弓氏 11月22日「長谷川流超ウルトラ楽観主義」

同窓会事務のマニュアル化

データ管理等、担当者にしかわからない属人的な仕事を、誰にでもできるようにここ2~3年かけてマニュアル化を進めてきた。現在ドラフトまでできたので、今年中に第1版を発表できるようにしたい。

ウェブサイトの維持管理

seldaa.netにて、会報25年分、先生の大学便り、読者の投稿、求人募集などが閲覧できる。月1回更新している。

2. 2006年度決算報告

会費収入・・・予算150万円のところ、1,849,000円の決算

初めて前年度収入(1,467,000円)を上回る。

地道な呼びかけ努力の成果。

会報費・・・住所のわかる5,760名に発送。

会計監査 落合彰子氏

5月10日会計担当の飛弾氏と会い、収支共に間違いのないことを確認した。

データベースについて説明(根本より)

紙の台帳を3年前から電子化している(Excel使用)。

ソフィア会との連携により、新卒者のデータも1分で受けられるようになった。

会報の発送時、会費未納者に「未」の判を手作業で押していたが、電子化によりラベルに打ち出せるようになり、1週間かかった作業が1日で終わるようになるなど能率アップしている。

3. 2007年度活動方針について

会報45, 46号を発行する。

S E L D A A協力による「大使講演会」の開催（6回）

S E L D A A主催のセミナー（1～2回）

同窓会事務のマニュアル化（継続）

S E L D A A設立25周年（2008年度）準備委員会の設立。内容については未定会費納入率アップキャンペーン

会員データベースの活用法の検討

紙の名簿がない時代。今後どう積極的に活動していくかがかかっている。

4. 2007年度予算案について、資料参照

5. 印刷名簿作成中止に伴う一部会則の変更について（単独審議）

個人情報保護法を踏まえ、ソフィア会は名簿を発行しないことを決めている。

平成15年度の名簿が最後になっている。

規約4条第1項 名簿作成に関する項目は削除する。

出席者全員の承認が得られた。

6. 石川会長退任と新会長の選任について

新会長として、長年副会長、事務局長を務めてきた、池沢 成実氏を推挙する。

出席者全員の承認が得られた。

7. 新会長挨拶（池沢）

<懇親会>

ミルワード先生がご出席くださる。子供連れのご夫婦なども加わり、和やかな一時を過ごす。

2006年度 上智大学英語学科同窓会 収支計算書
自 2006年4月1日 至 2007年3月31日

収入額 16,618,043
支出 3,284,590
次年度繰越金 13,333,453

(単位：円)

	科目	予算額	決算額	備考
収 入	1 繰越金	14,744,003	14,744,103	
	2 会費	1,500,000	1,849,000	会費、入会金、寄付金など
	3 受取利息	100	4,940	銀行預金、郵便貯金の利息
	4 講演会参加費	0	20,000	講演会参加費 500円×40人
	合計	16,244,103	16,618,043	
支 出	5 名簿作成積立金	0	0	
	6 会報費	3,000,000	2,650,850	印刷料、発送費用
	7 講演会補助費	200,000	108,500	講師謝礼、懇親会費補助など
	8 交流促進費	300,000	224,360	ウェブサイト維持管理費
	9 総会費	100,000	88,760	懇親会費
	10 会議費	100,000	77,395	常任委員会など
	11 事務処理費	400,000	134,725	通信費、振込手数料など
	12 予備費	12,144,103	0	
合計	16,244,103	3,284,590		
			13,333,453	2007年度に繰越

2006年度繰越金内訳

現金	33,740
郵便貯金振替口座	2,946,610
郵便貯金ぱるる口座	547,001
三菱東京UFJ銀行	9,806,102
合計	13,333,453

みずほ銀行(名簿積立)	1,866,343
-------------	-----------

2005年度の繰越金の金額を修正し、2006年度の
決算額は上記の通り、相違ないことを認める。
2007年5月10日

監査人

落合彰子 

2007年度 上智大学英語学科同窓会予算（案）
自 2007年4月1日 至 2008年3月31日

(単位：円)

	科目	予算額	備考	
収 入	1 繰越金	13,333,453		
	2 会費	1,500,000	入会金を含む	
	3 受取利息	4,000	銀行預金・郵便貯金の利息	
	4 講演会参加費	20,000		
	合計	14,857,453		
支 出	1 名簿作成積立金	0		支出構成比 0.00%
	2 会報費	3,000,000	会報45・46号	71.26%
	3 講演会補助費	160,000	SELDAA独自主催セミナー（8,000円×2）	3.80%
	4 交流促進費	250,000	ウェブサイト維持管理費、会員間交流事業等	5.94%
	5 総会費	100,000	資料作成・懇親会等	2.38%
	6 会議費	100,000	常任委員会等	2.38%
	7 事務処理費	200,000	データ作成・維持管理に伴う外注費、通信費、消耗品等	4.75%
	8 同窓会事務所家賃	300,000	月額25,000円、水道光熱費込み	7.13%
	9 雑費	100,000	会費等過剰支払い分の清算	2.38%
	10 予備費	10,647,453		
	合計	14,857,453		100.00%

支出合計
¥4,210,000

SELDAA 役員構成（2007年5月現在）

名誉会長 / 草深武（英語学科長） 会長 / 石川雅弥（昭和40年卒） 副会長・事務局長 / 池沢成実（昭和48年卒）

副会長 / 大日方聖信（昭和62年卒） 会計 / 飛弾誠（昭和53年卒） 会報 / 佐藤誠一郎（昭和53年卒）

常任委員 / 東郷公德（昭和62年卒）、成瀬洋子（昭和48年卒）、林めぐみ（平成13年卒）、根本竜太郎（平成15年卒）

監査 / 落合彰子（昭和46年卒）、安西徳子（昭和49年卒）

住所変更の通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください。同窓会事務局でいただいた変更通知は、「個人情報保護法」を尊重し必要な手続きの上、ソフィア会事務局にも通知します。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

また、最近では市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

住所・勤務先の変更等は、同封の葉書をお使いいただくか、SELDAAのホームページの「住所・勤務先変更フォーム」(http://seldaa.net/about/change_form.html)から送ってください。

SELDAAより、募集とお知らせ

SELDAAでは、皆様よりこの会報に掲載する記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせはこちらまで。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局
FAX.03-3238-3910 E-mail:info@seldaa.net
(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円
一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)
終身会員 : 一括払い 20,000円

あなたの会費納入状況

英語学科同窓会では、昭和32年から平成18年までの英語学科卒業生7,506名の会員データをコンピュータ化しました。それに伴い、会員の納入状況をより明確にお伝えすることができるようになりました。封筒の宛名ラベル右上にある日付は、例えば、「2006年3月31日(2005年度分)まで会費が支払われていることを示します。会費は年度単位で管理されています。「終身会員」「名誉会員」は表示の通りです。会費未納の方は、ラベルの右上に「願」と書かれています。

事務局では、データの正確な入力に最善を尽くしておりますが、表示内容に疑義や質問のある方は事務局までお知らせください。

SELDAA 常任委員 (2007年5月現在)

名誉会長 / 草深 武 (英語学科長)
会 長 / 池沢なるみ (昭和48年卒)
副会長・事務局長 / 根本竜太郎 (平成15年卒)
副 会 長・会 報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
会 計 / 飛弾 誠 (昭和53年卒)
常任委員 / 東郷公徳 (昭和62年卒)
林めぐみ (平成13年卒)
成瀬洋子 (昭和48年卒)
神田葉子 (昭和51年卒)
会計監査 / 落合彰子 (昭和46年卒)
安西徳子 (昭和49年卒)